浪江のこころ通信

●第111号●

平成23年３月11日に発生した東日本大震災、そして福島第一原子力発電所の事故により、町内全域に出されていた避難指示は、平成29年３月31日に「帰還困難区域」を除き解除されましたが、多くの浪江町民は福島県内外に分散して避難生活を続けています。町を取り巻く状況が徐々に変化する中で、町民の皆さんがどのような思いで生活し、ふるさとへの思いを抱いているのか。

〝浪江のこころプロジェクト〟は、町民の皆さんの声を「浪江のこころ通信（※1）」を通してお届けし、皆さんの思いや暮らしぶりを発信・共有しようとするものです。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム（※2）が中心となり、全国各地のＮＰＯ、大学などの皆さんが取材を進め、浪江町と連携し「浪江のこころ通信」を編集・発行しています。

※１ 浪江のこころ通信は、町民の皆さんがお話しした「こころ」を伝えることを大切にするため、取材者が聞き取ってまとめた原稿をほぼ原文のままで掲載しています。

※２ 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、大学、ＮＰＯ、企業、経済団体、行政などが連携したコミュニティ支援ネットワーク。仙台が本拠地。

「浪江のこころ通信／第111号」への感想をお寄せください。

【連絡先】〒979－1592
浪江町大字幾世橋字六反田7番地2
「浪江のこころ通信」宛て
FAX 0240(34)4593

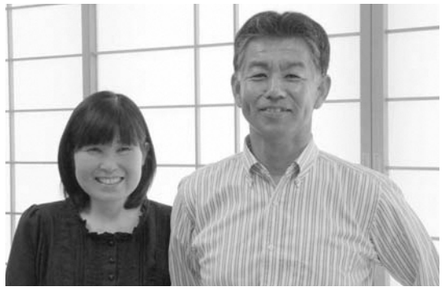
西内　隆さん・昭子さん（藤橋）

取材者：認定特定非営利活動法人市民公益活動パートナーズ　古山
取材日：６月21日

我が家の農地は守れた。これからは地区の人たちと営農を広げていきたい

西内さんご夫妻を取材した翌日（６月22日）の「河北新報」朝刊によれば、浪江町では今年のコメ栽培面積が昨年の３倍超となったことや、それでも震災前の約１割にも満たないことなどを改めて知りました。

浪江町で農業を再開され、その発展を願う隆さんの思いなどをお聞きした直後だけに、その数字に一層重みを感じるとともに、これからの奮闘にエールを送りたいと思いました。



▲隆さんが勤務する「福島いこいの村なみえ」の一室にて取材をさせていただきました。仲むつまじいお二人の笑顔が、とても印象的でした

◆隆さん　初めてコメを販売できた時、不安が消えました

あの震災の時は地元の会社に勤務していて、津島から福島市へ避難しました。会社が茨城県筑西市に移転することになり、震災直後の５月から約２か月間、設備移設の計画や作業の一員として参加し、同時に生産も始まりましたが、平成29年12月に帰還するまで勤務を続けました。

浪江町の家は農家でしたので、環境省の除染が終了し、土地が返還された頃から、自分の土地の草刈りは自分の手でと、週末には茨城県結城市から片道約３時間をかけて通っていました。約３町歩の農地を手入れしていましたが、往復に時間がかかることや、何としてもこの土地を守りたいという思いから、会社を早期退職することを決心し、浪江町で仕事を探しました。たまたま「福島いこいの村なみえ」が再開のために募集をしており、採用されました。午前中は農業をし、午後から夜まで勤務しています。

私たちの藤橋地区では平成30年から町の補助を受けながら、有志十数人が藤橋生産組合を立ち上げて水稲作付を再開しており、今年で３年目。中には栃木県宇都宮市や隣の南相馬市から通っている人もいます。10年、20年はコメを作れないと言われたこの土地で、収穫と販売ができた時には抱いていた不安が払拭（ふっしょく）できたんですよ。

◆昭子さん　今になって農業の楽しさを知りました

震災当時はコスモス保育園で調理員をしており、保育園が避難所になったために、家族の安否が心配でしたが、炊出しなどで忙しく、なかなか帰宅できませんでした。翌朝、夫や義母、子どもたちと一緒に福島市に避難をしました。翌年には義母と娘が茨城県に、長男は就職して埼玉県へ、学校の都合があった次男と私は福島市に残り、家族が３か所に離れたこともありました。その後、義母の介護のため、私も茨城県に移りました。

農業が大好きで「一人でも浪江に帰る」と言っていた義母は、帰還を果たせずに平成28年６月に亡くなりました。

以前の私は農業には一切興味がなかったんですが、福島市にいた頃、市内渡利地区の花木農家や周辺地域への貢献を目的に活動する「ＮＰＯ花見山を守る会」に勤め、畑仕事を手伝ったことがきっかけで、農業の大切さや楽しさが分かるようになりました。今は浪江にじいろこども園に勤務し、週末には夫の手伝いや家庭菜園をしながら、充実した日々を過ごしています。

◆隆さん　一緒についてきてくれた妻に感謝しています

藤橋地区だけでなく、浪江町では離農した人たちがたくさんいて、空いている土地も多いんです。これからの農業は個人ではなく、法人や組合を作って人を集めながら、規模の拡大を図る時代ですので、私もその一員として関わっています。

私たち藤橋生産組合では、ＪＡ（農業協同組合）の奨励品種であるタマネギも作っており、ちょうど今が収穫時期。西台の西内食堂では、かき揚げに使っていただいていますが、まもなく開業する道の駅にも卸したりしながら、販路を広げていきたいです。

妻には心から感謝しています。茨城県への避難から、浪江町に戻って農業をすると言った時もついてきてくれて、本当に助かっています。